＜主要施策名＞

〇楽しく学び自らを高める生涯学習の推進

平成28年度実施　事務事業評価表

担当課・係・内線：　生涯学習・スポーツ課　生涯学習係　内線：6231

Plan（計画）	主要施策名	楽しく学び自らを高める生涯学習の推進				
	施策区分	生涯学習の充実				
	施策目標	人生を心豊かに送るために、多様化する市民の生涯学習ニーズに対応し、地域住民の主体的かつ創造的な学習活動を支援する。				
	施策名	地域を学ぶ機会の充実				
	施策の目的	市民が地域文化の学習を通して、地域を愛し、地域に誇りを持てるよう地域に根ざした公民館活動や生涯学習活動の充実を図る。				
	H27最終予算額	2,075 千円	H27決算額	2,039 千円	H28当初予算額	2,100 千円

平成27年度事務事業の実施状況

Do（実施）	事業名	公民館活動振興事業
	予算科目	10.5.2.1
	実施状況	公民館指導員賃金　1,152千円 公民館研究大会・職員研修　795千円 市公連運営補助　80千円　事務費12千円

平成27年度事務事業の評価及び分析

Check（評価）	事業名	公民館活動振興事業	
	必要性・妥当性	3 点	３点：市民ニーズが高く、市が実施することが妥当な事業である。 ２点：市民ニーズが高く、市が実施することが妥当な事業であるが、一部に見直しの必要がある。（見直しを求める意見等がある。） １点：市民ニーズはあるが、市以外（他の公共団体・法人・個人）で実施することが可能である。
	優先性	3 点	３点：今、実施することが求められている。（優先度が高い・不可欠） ２点：できるだけ早く実施することが求められている。（優先度がある程度高い・継続が望ましい） １点：実施時期を延期することが可能である。（他事業に比して優先度がそれほど高くない。）
	効率性	3 点	３点：実施手段が市民の理解を十分得ており、計画どおり効率よく実施した。 ２点：実施手段が市民の理解を十分得ているが、計画の一部に見直しの必要がある。 １点：実施手段の一部に見直しの必要がある。（見直しを求める意見等がある。）
	経済性	3 点	３点：安い経費で実施した。 ２点：ある程度安い経費で実施したが、見直しが可能である。 １点：経費の大幅な見直し（事業の一部又は全部（廃止を含む。））が可能である。
	総合評価	４項目合計点数　12 点 A	A評価：１２点～１１点、B評価：１０点～９点、C評価：８点以下
	評価の理由等	各公民館で、主体的に活動を実施しており、砺波市における生涯学習の一翼を担っている。	

事務事業の今年度、来年度以降の改善・改革案（なるべく数値目標を用いて記載してください）

Action（改善）	前年度二次評価結果及び理由	
	前年度二次評価に対する改善策	
	前年度二次評価に対する改善結果又は取組状況	
	今年度（H28）	公民館の自主活動も活発であり、継続して支援を行う。

Action（改善）	来年度（H29）	公民館の自主活動も活発であり、今後も継続して支援を行う。
	中長期的（3～5年）	公民館長、公民館専任主事の資質向上を図る。
	改善・改革を実施する際の課題又は阻害要因とその解決策	

■所属長評価

施策としての総合評価	☑	A評価	目標とした指標等に到達するとともに、市民の評価が高く、事業成果が上がっていると認められる。
	□	B評価	目標とした指標等に概ね到達するとともに、市民の評価が高く、事業成果が上がっていると認められるが、事業の一部に見直しが必要であると思われる。
	□	C評価	目標とした指標等に達せず、事業の一部又は全部（廃止を含む。）に見直しが必要であると思われる。

上記「施策としての総合評価」を踏まえた今後の事業展開

□	重点化（コストを集中的に投入する）	□	手段の改善（実施主体や実施の手段を代える）
□	効率化（費用対効果の改善を行う）	□	簡素化（事業の規模や内容を縮小する）
□	統廃合（他の事業と統合する、又は廃止する）	☑	現行どおり

所属長評価の理由	A～C評価とした判断した理由を記載してください。併せて「担当係長評価と所属長評価に差がある」や「数字としてはあらわし難いが必要性がある」等がある場合は、その理由等も記載してください。 地区住民の生涯学習に対する経常的な事業であり、必要不可欠と考えている。

■二次評価（ワーキンググループにて記載）

選定理由		
前年度評価		維持：これまでの実施内容で引き続き実施することが適当なもの 改善：実施内容の改善することが適当なもの ①改善・効率化：事業の実施方法、計画、内容、経費等の改善又は効率化を図ることが適当なもの ②拡大：対象の拡大や手段の充実により事業の拡大を図ることが適当なもの ③縮小：対象の縮小や手段の絞り込み等により事業の縮小を図ることが適当なもの ④統合：目的が関連・類似する他の事業に統合を図ることが適当なもの 廃止・休止：廃止又は休止することが適当なもの
今年度評価		
今年度評価の理由		

■二次評価に対する改善策（所管課にて記載）

二次評価に対する改善策	

平成28年度実施　事務事業評価表

担当課・係・内線：　生涯学習・スポーツ課　生涯学習係　内線 6-231

Plan（計画）	主要施策名	楽しく学び自らを高める生涯学習の推進				
	施策区分	生涯学習の充実				
	施策目標	人生を心豊かに送るために、多様化する市民の生涯学習ニーズに対応し、地区住民の主体的かつ創造的な学習活動を支援する。				
	施策名	地域を学ぶ機会の充実				
	施策の目的	市民が地域文化の学習を通じて、地域を愛し、地域に誇りを持てるよう地域に根ざした公民館活動や生涯学習活動の充実を図る。				
	H27最終予算額	39,760 千円	H27決算額	39,467 千円	H28当初予算額	39,542 千円

平成27年度事務事業の実施状況

Do（実施）	事業名	地区公民館活動事業
	予算科目	10.5.2.2
	実施状況	公民館長報酬　1,848千円 公民館主事報償費　18,104千円 公民館総合補償保険　231千円 地区公民館活動運営業務委託　17,484千円 分館建設費補助等　1,789千円　事務費11千円

平成27年度事務事業の評価及び分析

Check（評価）	事業名	地区公民館活動事業	
	必要性・妥当性	3 点	3点：市民ニーズが高く、市が実施することが妥当な事業である。 2点：市民ニーズが高く、市が実施することが妥当な事業であるが、一部に見直しの必要がある。（見直しを求める意見等がある。） 1点：市民ニーズはあるが、市以外（他の公共団体・法人・個人）で実施することが可能である。
	優先性	3 点	3点：今、実施することが求められている。（優先度が高い・不可欠） 2点：できるだけ早く実施することが求められている。（優先度がある程度高い・継続が望ましい） 1点：実施時期を延期することが可能である。（他事業に比して優先度がそれほど高くない。）
	効率性	3 点	3点：実施手段が市民の理解を十分得ており、計画どおり効率よく実施した。 2点：実施手段が市民の理解を十分得ているが、計画の一部に見直しの必要がある。 1点：実施手段の一部に見直しの必要がある。（見直しを求める意見等がある。）
	経済性	2 点	3点：安い経費で実施した。 2点：ある程度安い経費で実施したが、見直しが可能である。 1点：経費の大幅な見直し（事業の一部又は全部（廃止を含む。））が可能である。
	総合評価	4項目合計点数　11 点 A	A評価：12点～11点、B評価：10点～9点、C評価：8点以下
	評価の理由等	各公民館で、主体的に活動を実施しており、砺波市における生涯学習の一翼を担っている。	

事務事業の今年度、来年度以降の改善・改革案（なるべく数値目標を用いて記載してください）

Action（改善）	前年度二次評価結果及び理由	
	前年度二次評価に対する改善策	
	前年度二次評価に対する改善結果又は取組状況	
	今年度（H28）	継続事業 地区公民館活動運営業務委託料の積算を検討する。

Action（改善）	来年度（H29）	公民館長、公民館専任主事の資質向上を図る。 地区公民館活動運営業務委託料の積算を検討していく。
	中長期的（3～5年）	公民館同士の情報交換も活発であり、このまま継続していきたい。
	改善・改革を実施する際の課題又は阻害要因とその解決策	地区公民館活動運営業務委託料の算定について、人口減に対して世帯数が増えていくことから、積算を世帯割から人口割へ変更していく。

■所属長評価

施策としての総合評価	☑	A評価	目標とした指標等に到達するとともに、市民の評価が高く、事業成果が上がっていると認められる。
	□	B評価	目標とした指標等に概ね到達するとともに、市民の評価が高く、事業成果が上がっていると認められるが、事業の一部に見直しが必要であると思われる。
	□	C評価	目標とした指標等に達せず、事業の一部又は全部（廃止を含む。）に見直しが必要であると思われる。

上記「施策としての総合評価」を踏まえた今後の事業展開

□	重点化（コストを集中的に投入する）	□	手段の改善（実施主体や実施の手段を代える）
□	効率化（費用対効果の改善を行う）	□	簡素化（事業の規模や内容を縮小する）
□	統廃合（他の事業と統合する、又は廃止する）	☑	現行どおり

所属長評価の理由	A～C評価とした判断した理由を記載してください。併せて「担当係長評価と所属長評価に差がある」や「数字としてはあらわし難いが必要性がある」等がある場合は、その理由等も記載してください。 公民館活動は、地域振興に寄与するとともに、地区住民のコミュニティ発展のためにも公民館事業は重要であると考えている。

■二次評価（ワーキンググループにて記載）

選定理由		
前年度評価		維持：これまでの実施内容で引き続き実施することが適当なもの 改善：実施内容の改善することが適当なもの ①改善・効率化：事業の実施方法、計画、内容、経費等の改善又は効率化を図ることが適当なもの ②拡大：対象の拡大や手段の充実により事業の拡大を図ることが適当なもの ③縮小：対象の縮小や手段の絞り込み等により事業の縮小を図ることが適当なもの ④統合：目的が関連・類似する他の事業に統合を図ることが適当なもの 廃止・休止：廃止又は休止することが適当なもの
今年度評価		
今年度評価の理由		

■二次評価に対する改善策（所管課にて記載）

二次評価に対する改善策	

平成28年度実施　事務事業評価表

担当課・係・内線：　生涯学習・スポーツ課　生涯学習係　内線：6-231

Plan（計画）	主要施策名	楽しく学び自らを高める生涯学習の推進				
	施策区分	生涯学習の充実				
	施策目標	人生を心豊かに送るために、多様化する市民の生涯学習ニーズに対応し、学習活動を支援する。				
	施策名	地域を学ぶ機会の充実				
	施策の目的	学習をとおして見聞を広め、郷土のよさを見直し、誇りをもつとともに、住みよいまちづくりへ参画する意欲を高める。				
	H27最終予算額	119 千円	H27決算額	91 千円	H28当初予算額	116 千円

平成27年度事務事業の実施状況

Do（実施）	事業名	生涯学習推進事業	
	予算科目	10.5.2.3	
	実施状況	市民大学「学遊塾」開催事業91千円	

平成27年度事務事業の評価及び分析

Check（評価）	事業名	生涯学習推進事業	
	必要性・妥当性	3 点	3点：市民ニーズが高く、市が実施することが妥当な事業である。 2点：市民ニーズが高く、市が実施することが妥当な事業であるが、一部に見直しの必要がある。（見直しを求める意見等がある。） 1点：市民ニーズはあるが、市以外（他の公共団体・法人・個人）で実施することが可能である。
	優先性	3 点	3点：今、実施することが求められている。（優先度が高い・不可欠） 2点：できるだけ早く実施することが求められている。（優先度がある程度高い・継続が望ましい） 1点：実施時期を延期することが可能である。（他事業に比して優先度がそれほど高くない。）
	効率性	2 点	3点：実施手段が市民の理解を十分得ており、計画どおり効率よく実施した。 2点：実施手段が市民の理解を十分得ているが、計画の一部に見直しの必要がある。 1点：実施手段の一部に見直しの必要がある。（見直しを求める意見等がある。）
	経済性	3 点	3点：安い経費で実施した。 2点：ある程度安い経費で実施したが、見直しが可能である。 1点：経費の大幅な見直し（事業の一部又は全部（廃止を含む。））が可能である。
	総合評価	4項目合計点数 11 点 A	A評価：12点～11点、B評価：10点～9点、C評価：8点以下
	評価の理由等	市民大学の受講者の固定化と全講座を履修しないことがあることから、講座内容や回数などを検討する必要がある。 回を重ねるごとに、参加者が減少していく。	

事務事業の今年度、来年度以降の改善・改革案（なるべく数値目標を用いて記載してください）

Action（改善）	前年度二次評価結果及び理由	
	前年度二次評価に対する改善策	
	前年度二次評価に対する改善結果又は取組状況	
	今年度（H28）	市民大学は、5月から11月までに11講座を予定しており34人が受講する。

Action（改善）	来年度（H29）	市民大学は継続実施。
	中長期的（3～5年）	講座の内容や、講座回数を検討する。
	改善・改革を実施する際の課題又は阻害要因とその解決策	年一度の著名人の講演や新たな講師の発掘が必要だが、予算措置が問題。

■所属長評価

施策としての総合評価	☑	A評価	目標とした指標等に到達するとともに、市民の評価が高く、事業成果が上がっていると認められる。
	☐	B評価	目標とした指標等に概ね到達するとともに、市民の評価が高く、事業成果が上がっていると認められるが、事業の一部に見直しが必要であると思われる。
	☐	C評価	目標とした指標等に達せず、事業の一部又は全部（廃止を含む。）に見直しが必要であると思われる。

上記「施策としての総合評価」を踏まえた今後の事業展開

☐	重点化（コストを集中的に投入する）	☐	手段の改善（実施主体や実施の手段を代える）
☐	効率化（費用対効果の改善を行う）	☐	簡素化（事業の規模や内容を縮小する）
☐	統廃合（他の事業と統合する、又は廃止する）	☑	現行どおり

所属長評価の理由	A～C評価とした判断した理由を記載してください。併せて「担当係長評価と所属長評価に差がある」や「数字としてはあらわし難いが必要性がある」等がある場合は、その理由等も記載してください。 本事業は、比較的に小額な予算の範囲内で、効果的な事業を展開している。

■二次評価（ワーキンググループにて記載）

選定理由		
前年度評価		維持：これまでの実施内容で引き続き実施することが適当なもの 改善：実施内容の改善することが適当なもの ①改善・効率化：事業の実施方法、計画、内容、経費等の改善又は効率化を図ることが適当なもの ②拡大：対象の拡大や手段の充実により事業の拡大を図ることが適当なもの ③縮小：対象の縮小や手段の絞り込み等により事業の縮小を図ることが適当なもの ④統合：目的が関連・類似する他の事業に統合を図ることが適当なもの 廃止・休止：廃止又は休止することが適当なもの
今年度評価		
今年度評価の理由		

■二次評価に対する改善策（所管課にて記載）

二次評価に対する改善策	

平成28年度実施　事務事業評価表

担当課・係・内線：　生涯学習・スポーツ課　生涯学習係　内線 6-231

Plan（計画）	主要施策名	楽しく学び自らを高める生涯学習の推進				
	施策区分	生涯学習の充実				
	施策目標	人生を心豊かに送るために、多様化する市民の生涯学習ニーズに対応し、学習活動を支援する。				
	施策名	学びを充実し生かす仕組みづくり				
	施策の目的	地域を知り、学び、地域に誇りを持つ人づくりするとともに、地域コミュニケーションの活性化を図る。				
	H27最終予算額	144,335 千円	H27決算額	136,798 千円	H28当初予算額	143,076 千円

平成27年度事務事業の実施状況

Do（実施）	事業名	社会教育推進事業
	予算科目	10.5.1.2
	実施状況	社会教育指導員賃金　2,304千円(2人) 成人式開催費　1,134千円　(実行委員会委員21人×2,000円) 社会教育委員報酬他　144千円(9人) 視聴覚教育協議会負担金　539千円 砺波市指定管理施設事業補助金　132,347千円(花と緑と文化の財団)　推進費事務費等330千円

平成27年度事務事業の評価及び分析

Check（評価）	事業名	社会教育推進事業	
	必要性・妥当性	3 点	3点：市民ニーズが高く、市が実施することが妥当な事業である。 2点：市民ニーズが高く、市が実施することが妥当な事業であるが、一部に見直しの必要がある。（見直しを求める意見等がある。） 1点：市民ニーズはあるが、市以外（他の公共団体・法人・個人）で実施することが可能である。
	優先性	3 点	3点：今、実施することが求められている。（優先度が高い・不可欠） 2点：できるだけ早く実施することが求められている。（優先度がある程度高い・継続が望ましい） 1点：実施時期を延期することが可能である。（他事業に比して優先度がそれほど高くない。）
	効率性	3 点	3点：実施手段が市民の理解を十分得ており、計画どおり効率よく実施した。 2点：実施手段が市民の理解を十分得ているが、計画の一部に見直しの必要がある。 1点：実施手段の一部に見直しの必要がある。（見直しを求める意見等がある。）
	経済性	3 点	3点：安い経費で実施した。 2点：ある程度安い経費で実施したが、見直しが可能である。 1点：経費の大幅な見直し（事業の一部又は全部（廃止を含む。））が可能である。
	総合評価	4項目合計点数　12 点 A	A評価：12点～11点、B評価：10点～9点、C評価：8点以下
	評価の理由等	社会教育の基本事業であり、今後も継続して推進する。	

事務事業の今年度、来年度以降の改善・改革案（なるべく数値目標を用いて記載してください）

Action（改善）	前年度二次評価結果及び理由	
	前年度二次評価に対する改善策	
	前年度二次評価に対する改善結果又は取組状況	
	今年度（H28）	社会教育の基本事業であり、継続して推進する。

Action（改善）	来年度（H29）	社会教育の基本事業であり、今後も継続して推進する。
	中長期的（3～5年）	成人式実行委員会の委員を各地区からの推薦を得て、式典等を挙行しているが、年々、推薦者数の掌握が困難な状況にあり、組織体制の検討を要する。 成人式記念品の必要性や品目について検討する。
	改善・改革を実施する際の課題又は阻害要因とその解決策	成人者の多くが学生で実家にいないことから、実行委員を受けても委員会の参加が困難である。

■所属長評価

施策としての総合評価	☑	A評価	目標とした指標等に到達するとともに、市民の評価が高く、事業成果が上がっていると認められる。
	□	B評価	目標とした指標等に概ね到達するとともに、市民の評価が高く、事業成果が上がっていると認められるが、事業の一部に見直しが必要であると思われる。
	□	C評価	目標とした指標等に達せず、事業の一部又は全部（廃止を含む。）に見直しが必要であると思われる。

上記「施策としての総合評価」を踏まえた今後の事業展開

□	重点化（コストを集中的に投入する）	□	手段の改善（実施主体や実施の手段を代える）
□	効率化（費用対効果の改善を行う）	□	簡素化（事業の規模や内容を縮小する）
□	統廃合（他の事業と統合する、又は廃止する）	☑	現行どおり

所属長評価の理由	A～C評価とした判断した理由を記載してください。併せて「担当係長評価と所属長評価に差がある」や「数字としてはあらわし難いが必要性がある」等がある場合は、その理由等も記載してください。 本事業は、経常的な重要な事業と考えている。

■二次評価（ワーキンググループにて記載）

選定理由		
前年度評価		維持：これまでの実施内容で引き続き実施することが適当なもの 改善：実施内容の改善することが適当なもの ①改善・効率化：事業の実施方法、計画、内容、経費等の改善又は効率化を図ることが適当なもの ②拡大：対象の拡大や手段の充実により事業の拡大を図ることが適当なもの ③縮小：対象の縮小や手段の絞り込み等により事業の縮小を図ることが適当なもの ④統合：目的が関連・類似する他の事業に統合を図ることが適当なもの 廃止・休止：廃止又は休止することが適当なもの
今年度評価		
今年度評価の理由		

■二次評価に対する改善策（所管課にて記載）

二次評価に対する改善策	

平成28年度実施　事務事業評価表

担当課・係・内線：　生涯学習・スポーツ課　生涯学習係　内線 6-231

Plan（計画）	主要施策名	楽しく学び自らを高める生涯学習の推進				
	施策区分	生涯学習環境の充実				
	施策目標	人生を心豊かに送るために、多様化する市民の生涯学習ニーズに対応し、主体的かつ創造的な学習活動を支援する。				
	施策名	生涯学習施設の整備・充実				
	施策の目的	社会教育施設間の連携を図り、生涯学習活動を支援する施設運営を行う。				
	H27最終予算額	16,811 千円	H27決算額	16,602 千円	H28当初予算額	12,498 千円

平成27年度事務事業の実施状況

Do（実施）	事業名	庄川生涯学習センター管理運営事業
	予算科目	10.5.1.6
	実施状況	指定管理料　12,498千円　（花と緑と文化の財団） 非常用照明灯取替等工事費　864千円 トイレ洋式改修工事　3,240千円

平成27年度事務事業の評価及び分析

Check（評価）	事業名	庄川生涯学習センター管理運営事業	
	必要性・妥当性	3 点	3点：市民ニーズが高く、市が実施することが妥当な事業である。 2点：市民ニーズが高く、市が実施することが妥当な事業であるが、一部に見直しの必要がある。（見直しを求める意見等がある。） 1点：市民ニーズはあるが、市以外（他の公共団体・法人・個人）で実施することが可能である。
	優先性	3 点	3点：今、実施することが求められている。（優先度が高い・不可欠） 2点：できるだけ早く実施することが求められている。（優先度がある程度高い・継続が望ましい） 1点：実施時期を延期することが可能である。（他事業に比して優先度がそれほど高くない。）
	効率性	3 点	3点：実施手段が市民の理解を十分得ており、計画どおり効率よく実施した。 2点：実施手段が市民の理解を十分得ているが、計画の一部に見直しの必要がある。 1点：実施手段の一部に見直しの必要がある。（見直しを求める意見等がある。）
	経済性	3 点	3点：安い経費で実施した。 2点：ある程度安い経費で実施したが、見直しが可能である。 1点：経費の大幅な見直し（事業の一部又は全部（廃止を含む。））が可能である。
	総合評価	4項目合計点数　12 点 A	A評価：12点～11点、B評価：10点～9点、C評価：8点以下
	評価の理由等	教育関係をはじめとして各種団体等の講演会や芸能発表など、施設の有効活用を図っている。	

事務事業の今年度、来年度以降の改善・改革案（なるべく数値目標を用いて記載してください）

Action（改善）	前年度二次評価結果及び理由	
	前年度二次評価に対する改善策	
	前年度二次評価に対する改善結果又は取組状況	
	今年度（H28）	平成26年度から30年度まで指定管理者と契約。利用者の利便やサービス向上を図り、利用率の向上と利用料収入の拡大を図るよう指定管理者を指導する。

Action（改善）	来年度（H29）	施設も老朽化しており、コスト削減を図るとともにきめ細かな維持管理を指導する。
	中長期的（3～5年）	施設も老朽化しており、コスト削減を図るとともにきめ細かな維持管理を指導する。
	改善・改革を実施する際の課題又は阻害要因とその解決策	老朽化による補修工事が必要となる。　予算措置

■所属長評価

施策としての総合評価	☑	A評価	目標とした指標等に到達するとともに、市民の評価が高く、事業成果が上がっていると認められる。
	☐	B評価	目標とした指標等に概ね到達するとともに、市民の評価が高く、事業成果が上がっていると認められるが、事業の一部に見直しが必要であると思われる。
	☐	C評価	目標とした指標等に達せず、事業の一部又は全部（廃止を含む。）に見直しが必要であると思われる。

上記「施策としての総合評価」を踏まえた今後の事業展開

☐	重点化（コストを集中的に投入する）	☐	手段の改善（実施主体や実施の手段を代える）
☐	効率化（費用対効果の改善を行う）	☐	簡素化（事業の規模や内容を縮小する）
☐	統廃合（他の事業と統合する、又は廃止する）	☑	現行どおり

所属長評価の理由	A～C評価とした判断した理由を記載してください。併せて「担当係長評価と所属長評価に差がある」や「数字としてはあらわし難いが必要性がある」等がある場合は、その理由等も記載してください。 類似施設の統廃合により、更に各種団体等の利用が高まることから、現状施設の維持が必要と考えている。

■二次評価（ワーキンググループにて記載）

選定理由		
前年度評価		維持：これまでの実施内容で引き続き実施することが適当なもの 改善：実施内容の改善することが適当なもの ①改善・効率化：事業の実施方法、計画、内容、経費等の改善又は効率化を図ることが適当なもの ②拡大：対象の拡大や手段の充実により事業の拡大を図ることが適当なもの ③縮小：対象の縮小や手段の絞り込み等により事業の縮小を図ることが適当なもの ④統合：目的が関連・類似する他の事業に統合を図ることが適当なもの 廃止・休止：廃止又は休止することが適当なもの
今年度評価		
今年度評価の理由		

■二次評価に対する改善策（所管課にて記載）

二次評価に対する改善策	

平成28年度実施　事務事業評価表

担当課・係・内線：　砺波図書館　庄川図書館 内線

Plan（計画）	主要施策名	楽しく学び自らを高める生涯学習の推進				
	施策区分	生涯学習環境の充実				
	施策目標	・図書館はすべての人々に、「読みたい・知りたい・学びたい」を支援し、暮らしの中の図書館を目指します ・よりよい機能の充実を図りこころ豊かなまちづくりを応援する				
	施策名	図書館機能の充実				
	施策の目的	カウンタサービス、資料の収集・保存と提供、読書相談、講座や行事・展示の開催、情報発信				
	H27最終予算額	21,051 千円	H27決算額	20,870 千円	H28当初予算額	20,190 千円

平成27年度事務事業の実施状況

Do（実施）	事業名	図書館運営活動事業	
	予算科目	10.5.4.3	
	実施状況	・雑誌スポンサー制度導入 ・図書館サポーター養成講座（4回シリーズ） ・東部小図書ボランティアとの連携（学校建設室から移行）	

平成27年度事務事業の評価及び分析

Check（評価）	事業名	図書館運営活動事業		
	必要性・妥当性	3 点		3点：市民ニーズが高く、市が実施することが妥当な事業である。 2点：市民ニーズが高く、市が実施することが妥当な事業であるが、一部に見直しの必要がある。（見直しを求める意見等がある。） 1点：市民ニーズはあるが、市以外（他の公共団体・法人・個人）で実施することが可能である。
	優先性	3 点		3点：今、実施することが求められている。（優先度が高い・不可欠） 2点：できるだけ早く実施することが求められている。（優先度がある程度高い・継続が望ましい） 1点：実施時期を延期することが可能である。（他事業に比して優先度がそれほど高くない。）
	効率性	2 点		3点：実施手段が市民の理解を十分得ており、計画どおり効率よく実施した。 2点：実施手段が市民の理解を十分得ているが、計画の一部に見直しの必要がある。 1点：実施手段の一部に見直しの必要がある。（見直しを求める意見等がある。）
	経済性	3 点		3点：安い経費で実施した。 2点：ある程度安い経費で実施したが、見直しが可能である。 1点：経費の大幅な見直し（事業の一部又は全部（廃止を含む。））が可能である。
	総合評価	4項目合計点数	11 点	A評価：12点～11点、B評価：10点～9点、C評価：8点以下
		A		
	評価の理由等	・雑誌スポンサー制度導入に伴い、図書館で提供する資料の充実が図られた ・サポーター養成講座を計画通りに開催できた		

事務事業の今年度、来年度以降の改善・改革案（なるべく数値目標を用いて記載してください）

Action（改善）	前年度二次評価結果及び理由	
	前年度二次評価に対する改善策	
	前年度二次評価に対する改善結果又は取組状況	
	今年度（H28）	・新砺波図書館開館に向け、「図書館サポーター講座」開催 ・雑誌スポンサー制度継続 ・国会図書館デジタル化資料送信サービス参加

Action（改善）	来年度（H29）	・図書館システム更新
	中長期的（3～5年）	・新砺波図書館開館に向けＩＣタグ装備 ・新砺波図書館に向け市民との協働体制づくり ・新砺波図書館開館に向け「図書館利用カード」作成、マスコットキャラクター公募
	改善・改革を実施する際の課題又は阻害要因とその解決策	・サービスを利用するための必要な機器とネットワーク環境の整備

■所属長評価

施策としての総合評価	☑	A評価	目標とした指標等に到達するとともに、市民の評価が高く、事業成果が上がっていると認められる。
	□	B評価	目標とした指標等に概ね到達するとともに、市民の評価が高く、事業成果が上がっていると認められるが、事業の一部に見直しが必要であると思われる。
	□	C評価	目標とした指標等に達せず、事業の一部又は全部（廃止を含む。）に見直しが必要であると思われる。

上記「施策としての総合評価」を踏まえた今後の事業展開

☑	重点化（コストを集中的に投入する）	□	手段の改善（実施主体や実施の手段を代える）
□	効率化（費用対効果の改善を行う）	□	簡素化（事業の規模や内容を縮小する）
□	統廃合（他の事業と統合する、又は廃止する）	□	現行どおり

所属長評価の理由	A～C評価とした判断した理由を記載してください。併せて「担当係長評価と所属長評価に差がある」や「数字としてはあらわし難いが必要性がある」等がある場合は、その理由等も記載してください。 ・図書館サポーター養成講座の開催により、図書館利用者をはじめ市民の皆さんに「市民協働での図書館づくり」を目指す図書館活動の理解を得られたと考える ・将来的に図書館でどのようなサポートが出来るのか、図書館と市民の共働で事業を行う範囲は何処まで可能かを今後検討していきたい。また利用者や市民のみなさんに目に見える形で図書館サポーター事業の紹介ができればと考えている

■二次評価（ワーキンググループにて記載）

選定理由		
前年度評価		維持：これまでの実施内容で引き続き実施することが適当なもの 改善：実施内容の改善することが適当なもの ①改善・効率化：事業の実施方法、計画、内容、経費等の改善又は効率化を図ることが適当なもの ②拡大：対象の拡大や手段の充実により事業の拡大を図ることが適当なもの ③縮小：対象の縮小や手段の絞り込み等により事業の縮小を図ることが適当なもの ④統合：目的が関連・類似する他の事業に統合を図ることが適当なもの 廃止・休止：廃止又は休止することが適当なもの
今年度評価		
今年度評価の理由		

■二次評価に対する改善策（所管課にて記載）

二次評価に対する改善策	

平成28年度実施　事務事業評価表

担当課・係・内線：　砺波図書館　庄川図書館 内線

Plan（計画）	主要施策名	楽しく学び自らを高める生涯学習の推進				
	施策区分	生涯学習環境の充実				
	施策目標	子どもと本をつなぐ環境の整備				
	施策名	図書館機能の充実				
	施策の目的	資料提供の機能の展開として集会や行事を開催し易いように整備する				
	H27最終予算額	21,550 千円	H27決算額	20,524 千円	H28当初予算額	19,766 千円

平成27年度事務事業の実施状況

Do（実施）	事業名	図書館管理事業
	予算科目	10.5.4.2
	実施状況	・施設維持管理 ・高圧機器類劣化対策工事（砺波） ・出町ふれあいセンター内に別置してある図書館資料を受入・廃棄の精査及び未入力資料については図書館システムに入力し、他の施設へ移動整理。 ・寄贈図書の受入・廃棄手続き及び図書館システムへの入力

平成27年度事務事業の評価及び分析

Check（評価）	事業名	図書館管理事業	
	必要性・妥当性	3 点	3点：市民ニーズが高く、市が実施することが妥当な事業である。 2点：市民ニーズが高く、市が実施することが妥当な事業であるが、一部に見直しの必要がある。（見直しを求める意見等がある。） 1点：市民ニーズはあるが、市以外（他の公共団体・法人・個人）で実施することが可能である。
	優先性	2 点	3点：今、実施することが求められている。（優先度が高い・不可欠） 2点：できるだけ早く実施することが求められている。（優先度がある程度高い・継続が望ましい） 1点：実施時期を延期することが可能である。（他事業に比して優先度がそれほど高くない。）
	効率性	3 点	3点：実施手段が市民の理解を十分得ており、計画どおり効率よく実施した。 2点：実施手段が市民の理解を十分得ているが、計画の一部に見直しの必要がある。 1点：実施手段の一部に見直しの必要がある。（見直しを求める意見等がある。）
	経済性	3 点	3点：安い経費で実施した。 2点：ある程度安い経費で実施したが、見直しが可能である。 1点：経費の大幅な見直し（事業の一部又は全部（廃止を含む。））が可能である。
	総合評価	4項目合計点数 11 点 A	A評価：12点～11点、B評価：10点～9点、C評価：8点以下
	評価の理由等	・受電設備の不良個所を更新し、電気設備の安全対策を講じた ・出町ふれあいセンター内の図書館資料を移動整理 ・寄贈図書の整備	

事務事業の今年度、来年度以降の改善・改革案（なるべく数値目標を用いて記載してください）

Action（改善）	前年度二次評価結果及び理由	【改善】 新図書館建設までに、郷土資料館と連携し郷土資料との一元管理・保存に向けた資料の整理・データ化を行うこと。
	前年度二次評価に対する改善策	引き続き、計画的に未整理図書及び資料を整備し、迅速に提供する。併せて、蔵書計画を策定する。また、関係機関との日常的な連携により、ネットワークの強化が図れるよう状況を見ながら検討する。
	前年度二次評価に対する改善結果又は取組状況	郷土資料は歴史的なものから今日的なものまで幅広く継続的に保存していくが、特に歴史、民俗、地誌など郷土史分野においては郷土資料館と連携し、利便性を提供していかなければならないと考えており協議を進めている。また、保存については具体的な実施方針の作成に向け検討を進めている。なお、県立図書館と重複する雑誌のバックナンバー（最新号より古い物全て）と官報は廃棄処分とし、書庫を整理した。
	今年度（H28）	・保存についての具体的な実施方針（資料収集基準、蔵書保存基準及び除籍基準）を作成 ・寄贈図書の受入・廃棄手続き及び図書館システムへの入力

Action（改善）	来年度（H29）	・未整備図書及び資料の整備。そして、図書館システムへの入力 ・寄贈図書の受入・廃棄手続き及び図書館システムへの入力
	中長期的（3～5年）	・新砺波図書館開館前の平成３２年３月までには、計画的に未整備図書及び資料の整備。そして、図書館システムへの入力
	改善・改革を実施する際の課題又は阻害要因とその解決策	・専属に臨時職員を充てている ・図書・資料整理を期限まで（平成３２年３月まで）に完了させるためには、人員不足があげられる。

■所属長評価

施策としての総合評価	☑	A評価	目標とした指標等に到達するとともに、市民の評価が高く、事業成果が上がっていると認められる。
	□	B評価	目標とした指標等に概ね到達するとともに、市民の評価が高く、事業成果が上がっていると認められるが、事業の一部に見直しが必要であると思われる。
	□	C評価	目標とした指標等に達せず、事業の一部又は全部（廃止を含む。）に見直しが必要であると思われる。

上記「施策としての総合評価」を踏まえた今後の事業展開

□	重点化（コストを集中的に投入する）	□	手段の改善（実施主体や実施の手段を代える）
□	効率化（費用対効果の改善を行う）	□	簡素化（事業の規模や内容を縮小する）
□	統廃合（他の事業と統合する、又は廃止する）	☑	現行どおり

所属長評価の理由	A～C評価とした判断した理由を記載してください。併せて「担当係長評価と所属長評価に差がある」や「数字としてはあらわし難いが必要性がある」等がある場合は、その理由等も記載してください。 すでに収容能力を超えている砺波図書館は外部に移管先を設け、新館開館まで保存管理するようにしたが、どこまでも保存できるわけではないので一貫性をもった除籍計画が必要。 庄川図書館も収容冊数の限界に達しているが、現在の書庫のみでの保存として除籍計画を進め、書庫入れ調整のできる書架管理が望まれる。

■二次評価（ワーキンググループにて記載）

選定理由	平成27年度で「改善」又は「廃止・休止」と判断された事務事業	
前年度評価	改善	維持：これまでの実施内容で引き続き実施することが適当なもの 改善：実施内容の改善することが適当なもの ①改善・効率化：事業の実施方法、計画、内容、経費等の改善又は効率化を図ることが適当なもの ②拡大：対象の拡大や手段の充実により事業の拡大を図ることが適当なもの ③縮小：対象の縮小や手段の絞り込み等により事業の縮小を図ることが適当なもの ④統合：目的が関連・類似する他の事業に統合を図ることが適当なもの 廃止・休止：廃止又は休止することが適当なもの
今年度評価	改善	
今年度評価の理由	郷土資料館と連携し郷土資料との一元管理・保存に向けた資料の整理・データ化を行うため、作業スケジュールを立て目録の整理等について、具体的な実施に取り組まれたい。	

■二次評価に対する改善策（所管課にて記載）

二次評価に対する改善策	引き続き、郷土資料館と連携し、郷土資料の一元管理・保存に向けた協議を行い、作業スケジュールを立て目録の整備等に取り組む。